

未病で描き出すポストコロナの世界、そして未来

スタンフォード大学医学部と神奈川県は、2016年に連携協力の覚書を締結し、これまでライフサイエンス分野などで科学技術の発展や、その実用化・産業化に向けて、協調した取組を進めてきました。

本シンポジウムでは、コロナ禍においてますます重要性を増す「未病」の取組についてご紹介するとともに、「未来」、「ポストコロナの世界」に向けた注目すべき動向についてディスカッションします。ぜひご視聴ください。

詳細はホームページをご覧ください。https://www.kuhs.ac.jp/events/details_01015.html



日時

- 2021年11月17日（水）～18日（木）
10時～12時30分（日本時間）

開催概要

- 言語 英語（日本語通訳あり）
- 対象 ヘルスケア、ライフサイエンス関連のアカデミアや企業の方等
- 開催形式 Zoom（お申し込み後、開催数日前にリンクをご案内します）

申込方法

- 参加フォーム（Peatix）からお申込みください。
<https://stanford-kanagawasymposium.peatix.com>
※各プログラムごとではなく、2日間まとめてのお申込みとなります。
- 申込期限 2021年11月15日（月）

主催

- 神奈川県、スタンフォード大学医学部

参加
無料

オンライン
要事前
登録



プログラム概要

【第1日】2021年11月17日（水）10時～12時30分

未病を切り口に健康とテクノロジーの今後を考える

健康寿命の延伸と、持続可能な新たな社会システムを実現するために神奈川県が提唱する「未病」の概念。コロナ禍において重要となる未病の取組とともに、医学的な見地からスタンフォード大学の取組をご紹介します。

おもな登壇予定者

ロイド・マイナー	スタンフォード大学医学部長
黒岩 祐治	神奈川県知事
鄭 雄一	神奈川県立保健福祉大学 理事・副学長・大学院ヘルスイノベーション 研究科長 東京大学大学院 工学系研究科・医学系研究科 教授 JSTセンター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会」拠点副機構長・研究リーダー
徳野 慎一	神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 教授
岸 暁子	東京大学 工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 個別化保健医療講座 特任助教
マイケル・シュナイダー	スタンフォード大学 医学部遺伝子学研究科長

ほか

【第2日】2021年11月18日（木）10時～12時30分

新型コロナ感染症を巡る未病・重症化予防の取組

健康寿命を延伸するために先端技術を駆使する「未病」の取組は、コロナ禍にどう立ち向かい、どんな成果を挙げたのか。具体的な事例を紹介し、日米のデータ比較から新型感染症に強靱な社会を模索します。

おもな登壇予定者

ユウ ハイキョウ	神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 教授
北島 正章	北海道大学大学院工学研究院 環境工学部門 准教授
ジェームス・マーシ	カリフォルニア大学デービス校 医学部小児科教授
ロナルド・パール	スタンフォード大学 医学部麻酔科部長

ほか

プログラム内容や登壇予定者は変更の可能性があります。

【問合せ先】

神奈川県立保健福祉大学 イノベーション政策研究センター（CIP）（担当：金子、甲田）

E-mail: kokusaitenkai-webinar@kuhs.ac.jp

TEL: 044-589-8100 ※メールでのお問合せにご協力をお願いいたします。

本事業は、神奈川県立保健福祉大学が神奈川県から受託して実施します。